



ふうの木のある学校から

高鍋町立高鍋西小学校 学校だより 12月号① 文責 校長

もう12月

年齢のせい、1日・1ヶ月・1年という時間を短く感じるようになったように思います。

「1ヶ月入院していたからですよ。」

と言われることもあります、ホントに時の経つのは早いものです。

学校の12月というと、「2学期のまとめ」というのが、子どもたちや保護者の皆さんには、理解されやすい業務のひとつかと思えます。

実は、もうひとつ大切な業務の始まりでもあるのです。

それは何かというと、
「来年度へ向けての準備」です。

令和7年の4月から令和8年の3月末までのカレンダーを分析して授業可能な日数を割り出し、授業時数を算出します。

その授業時数に、教科指導や行事などの具体的な教育活動を盛り込んでいく作業です。

実際の活動については、本年度の反省を生かして、新しく取り組むべき部分、改善すべきところ、そのまま残すべきところ等、時間をかけて吟味していきます。

つつい「現状維持」へ傾きがちになりますが、時代のニーズ、町や地域のニーズ、保護者や子どもたちの声、先生方の思いも反映させなければなりません。

「ああしたほうがいいのかもしいない」

「こんなこともできるんじゃないか」

「今こそ、これが必要だ」

といった作業にしていきたいと考えています。

本年度の業務をしながら次年度の準備をするという行政や企業と同様の働き方ですが、学校への理解が少しでも深まればありがたいです。

睡眠の大切さ

先日、町小中学校合同学校保健委員会に参加してきました。

「子どもの望ましい生活習慣と睡眠について」という講演で研修してきました。

睡眠が、子どもたちの学びやトレーニングの成果や心（精神）の安定に大きく影響することはご承知のとおりです。

「レム睡眠・深部体温・大脳皮質・トリプトファン・セロトニン・メラトニン」等々

キーワードとして、いくつか列挙しました。
ぜひ、スマホ等でチェックしてみてください。

戸数先生は、第2項目として

「目（視力）に対する危険」についても、言及されました。

キーワードとしては、「ブルーライト・片眼視・スマホ内斜視・眼軸近視」です。

終わりには、

「睡眠に起因する問題も、目（視力）に対する危険についても、大人がしっかり学んで、子ども達を守らなければならない」というメッセージをいただきました。

現代は、生涯学習社会です。学校を卒業してから、就職したから、親になったから学びが終わる時代ではありません。

ヒトの脳は、脳科学の分野から様々な知見が得られるようになっており、前頭前野の働きや非認知能力の話も、どこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか？

子育てについても学び続け、将来を担う子ども達にしっかりバトンタッチできる大人でありたいものです。

ご指摘ありがとうございます

- ① 授業態度を子どもたちに自己評価させて、良くない評価が多かったら学級全体に反省を促し、改善に生かすための手立てについて。

授業態度を改善させようとする思いは大切ですが、自己評価や全体指導の時間が昼休みになってしまったり、不公平を感じさせたりする手立てになっていた。

よって、「何のために」自己評価や指導をするのかをきちんと説明し、誤解や不公平感を感じさせない手立てをとること、有効性・見届けを含めた手立てを心がけ、必要に応じて管理職にも相談すること。

- ② 朝、保護者の方からの連絡が、きちんと学級担任に伝わっていなかったことについて。

伝言を受け取ったものの、子どもさんの名前が間違っ伝わってしまい、本来連絡すべき担任に伝達されなかったため、再度担任から確認の電話があった。

よって、電話を受けた際の「学年・学級・児童名、内容」の確認、確実な伝達を徹底すること。

- ③ 学年や学級経営にかかわるご心配について。

学習集団として育てる一方で、個に応じた指導も同時に求められる中、教員自身も多様な子ども達の指導支援に試行錯誤している。

その手立てが子ども達に浸透するのには、一定の時間を要するが、ご心配はもっともである。

よって、学級経営上の困り感について職員間で十分相談を行うこと、管理職による校内巡視や授業参観等について更に時間をかけ助言を行うこと、状況改善が困難な事案については、全職員体制で対応すること。

簡単にまとめると以上のような体制・対応をするようにしました。

本校も町教委をはじめ、多くの関係機関と連絡連携して教育活動を行っています。

日頃から事象の大小にかかわらず、未然防止・早期改善に努めているところです。

気になることがありましたら、直接学校へご連絡いただくよう、お願いします。

5年生の歌声と演奏

高鍋町と木城町の学校による合同音楽祭。
5年生が合唱と合奏で参加・発表しました。

(11月12日)

ふだんは、校内の音楽室や講堂の中での演奏練習をしているため、吉行先生の指導による歌声の響きや楽器の音の重なりを体感しにくい部分を心配していました。

今回「たかしんホール」での合唱・演奏は、子ども達の伸び伸びとした歌声が響きわたり、リズム感ある中にも一人一人の演奏が織りなすハーモニーが耳に残る発表でした。

今まで練習してきたことを素敵な発表につなげたこと、多くの人に聞いていただき拍手をもらったことは、子ども達にとって大きな自信となり、さらなる学びへの意欲を高めるよい機会になったのではないかと思います。

6年生の演技

町を挙げての「嚶鳴フォーラム」の開催。

6年生が劇「石井十次ものがたり」で参加しました。(11月16日)

12年に一度という開催地に決まったことから、本年度に限り、研究発表形式から劇発表することになりました。

演出や演出アシスタント、ピアノ演奏者の派遣など、町の手厚いご支援もいただきました。

子ども達は劇を演じることを通して、台詞の無にかかわらず、舞台上で演じることの難しさや、舞台自体がどのように運営されているのか等を学んでいたと思いました。

私は、その後の歴史作家さんによる講演まで会場にいました。石井十次の一生をエピソードを交えて語られました。

「6年生が聴いていたなら、より多くの学びになったのかもしれない。千載一遇のチャンスを逃したかも」と感じた次第です。